



新・いわき湯本温泉

まちづくりビジョンブック

2023年4月

目次

はじめに	03
------	----

いわき湯本温泉を知る人たちへ

いわき湯本温泉をこれから知る人たちへ

1 こういうビジョンで 新しいまちをつくっていかう	04
------------------------------	----

▶ ビジョンの位置づけ	04
-------------	----

▶ このまちでは何がビジョンになるか？	05
---------------------	----

▶ ビジョン	06
--------	----

▶ アクション	07
---------	----

▶ コンテンツ／キャッチコピー	08
-----------------	----

▶ 新しいまちのつくり方	09
--------------	----

2 新しいまちはどうなる？	10
---------------	----

▶ マイプレイスのエリア分けとイメージ	10
---------------------	----

エリア① 駅前広場・交流拠点	12
----------------	----

エリア② 駅前緑地周辺	17
-------------	----

エリア③ みゆき山	18
-----------	----

エリア④ 軌道みち	21
-----------	----

エリア⑤ 支所跡地・温泉神社周辺	22
------------------	----

エリア⑥ 表町通り・裏町通り	24
----------------	----

3 新しいまちづくりの これまでとこれから	26
--------------------------	----

【番外】 いわき湯本温泉ってどんなところ？	28
-----------------------	----

おわりに	30
------	----

未来のいわき湯本温泉にいる人たちへ

いわき湯本温泉ブランド化作戦会議 メンバー	31
-----------------------	----

「いわき湯本温泉ブランド戦略 地域ワークショップ」とは	31
-----------------------------	----

はじめに

いわき湯本温泉を知る人たちへ

いま湯本で、新しいまちづくりがはじまっていることを
知っていますか？

2030 年に向けて、駅前広場・みゆき山・温泉神社周辺を拠点とし、
まちは大きく変わろうとしています。

湯本のまちは、震災とコロナで大きな打撃を受けました。

どうしたらもう一度、活気を取り戻せるか？

取り戻すとしたら、どんな活気がいいのか？

人口減少など多くの問題を抱えながら、

まちはどう続いていくのが良いのか？

そもそも湯本の人たちは、どんなまちに暮らしたいのか？

外から訪れる人に、湯本のどんな良いところを知って欲しいのか？

そんなことを考えるためのワークショップを、湯本の住民有志と
いわき市役所とともに開きました。

そこで見出された「新しい湯本のまちの姿」を、この冊子を通して、
一緒に見ていきましょう。

いわき湯本温泉を これから知る人たちへ

「湯本温泉」を知っていますか？

箱根でも長門でもありません。

福島県いわき市にある湯本温泉です。

日本全国に温泉地は無数にありますが、1300 年の歴史があるというのは、
それほど多くはないはずです。映画「フラガール」の舞台になった
炭鉱のあったまちだと言えば、「ああ！」と思い出してくれる人も
いるかもしれません。

しかし 2023 年現在、いわき湯本温泉には少し元気がありません。

でも、湯本はもう一度立ち上がります。

ここで暮らす人たちが、もっと素敵なまちにしよう、と

考えているからです。

自分たちが住みやすく、訪れてくれた人にも好きになってもらえる、
そんなまちにしたいという想いがあります。

湯本の人たちが、未来のまちにどんな風景を見ようとしているのか――
その一端を、この冊子でご紹介します。

1 こういうビジョンで 新しいまちを つくっていかう

まちづくりには、なぜ
「ビジョン」が必要なのでしょう？

まちは多くの人によって運営されています。
そこに暮らす人、地域組織、民間企業、行政——。
それぞれ違う視点を持っていて、
まちに対する思いもさまざまです。

皆がバラバラにまちの運営を始めたら、
どうなるのでしょうか？
それでもまちは成立します。
でも、多くの人が行ってみたいような
「魅力的なまち」にはならないかもしれません。

近年、多くの地域でまちづくりのビジョンが
掲げられるようになりました。
それは、ビジョンのあるまちづくりが、
まちの魅力を育てるからです。

しかし、そもそも「ビジョン」とは、
何なのでしょう？

▶ ビジョンの位置づけ

ビジョンとは、まちづくりの**よりどころ**となる「**土台**」です。

まちはこの先、何十年、何百年、もしかしたら千年以上続くかもしれません。

望まれるまちの姿は時代によって変化しますが、この先の数十年を考える時には、
少し先の未来を予想しながら、**理想のまちのかたち**を描いておくのが良いでしょう。

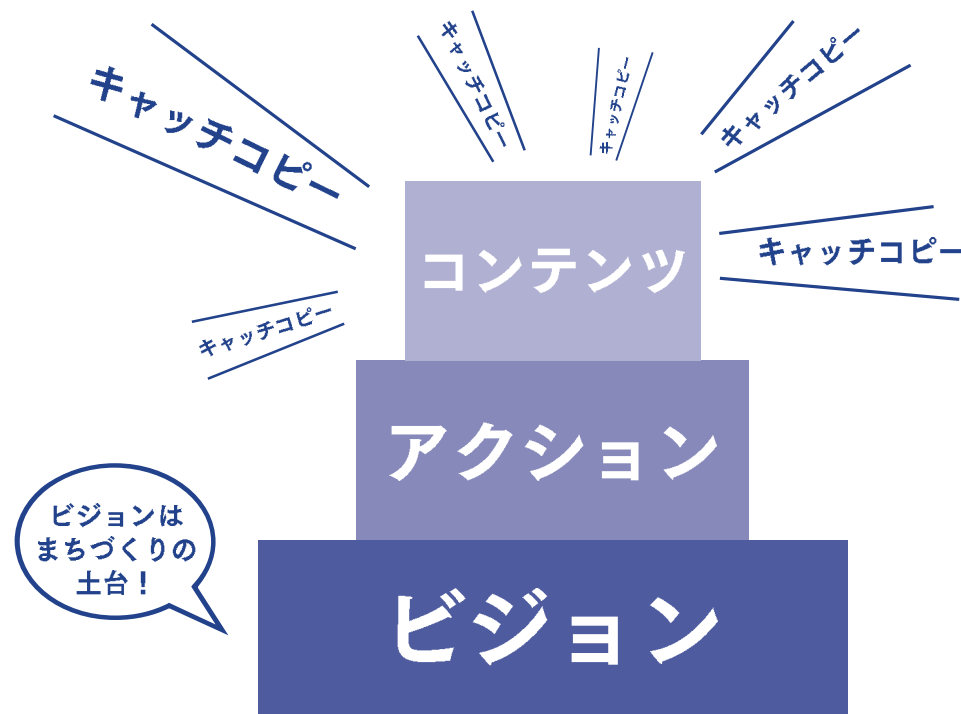
そのよりどころになるものが、**そのまちらしさ**であり、**まちの魅力**です。

これを再発見し、まちの運営に関わる**皆で共有**する。

これが、まちづくりの**スタート地点**です。

よりどころを見つけて、まちづくりの計画に取り込んでいく。

こうしてはじめて、自分たちが思い描く「**魅力的なまち**」に近づいていけるのです。



▶このまちでは何がビジョンになるか？

ビジョンを見つけるためのワークショップは、
湯本の魅力は何なのか？を問い直すところから始まります。
そして、いま、このまちに足りないものは何なのか……？も。



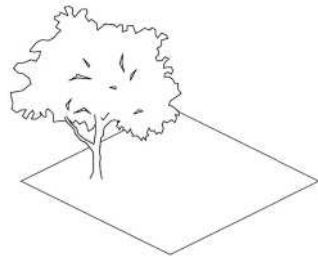
湯本で暮らす人には
まちなかにもっと
「居場所」が欲しい、
という思いがあった

例えば、こんな居場所が欲しい

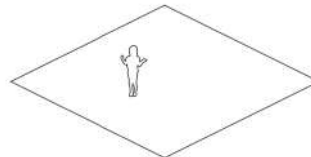
- 家族と過ごせるカフェ
- 子どもも遊べる広場
- 自分で運営するお店
- 友人を連れて行きたくなる
レストラン

居場所は、どうやったらできるのか？

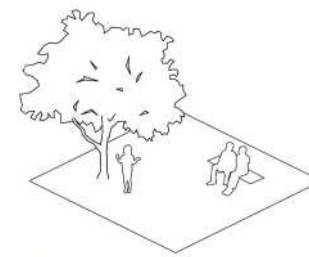
湯本の人々が望むのは、ただの場所ではなく、そこで何かを体験できる（アクティビティがある）ところです。
自分ひとりで。あるいは、誰かと一緒に。
それを私たちは「プレイス」と呼びたいと思います。



場所
があって、



人
がいて、



アクティビティ
が行われる

それが **プレイス**

湯本に暮らす人が大切にする、
たくさんの「プレイス」をつくる！



私 プレイス
~~みんなのまちづくり~~

にしていこう！

▶ ビジョン

いわき湯本温泉が目指すのは、自分たちがつくったいろいろな種類のプレイスが、
エリアのあちこちに点在しているまち。
たくさんのマイプレイスで行われるアクティビティが、湯本らしいまちの魅力をつくり出します。

マイプレイスを想像・創造できるまち

自分だけの お気に入りの 居場所を 想像・創造する

いつものカフェや駅前広場のオープンテラス、みゆき山から見る景色など、お気に入りの居場所を見つけることも「マイプレイス」の創造です。場所を持つことだけではありません。

誰かに 紹介したい お店を 想像・創造する

誰かに紹介したいお店がたくさんあるまちには人が集まります。あんなお店やこんなお店、あったらいいなと思うお店を想像してみることからまちづくりが始まります。

仲間と 集まる 空間を 想像・創造する

ひとりで過ごしたい日もあれば、皆とワイワイ過ごしたい時間もあります。いろいろな過ごし方を可能にするたくさんのプレイスがあるまちには、たくさんの出来事が起こります。

新しいことに チャレンジする 仕組みを 想像・創造する

新しいことを始めたいと思った時、それを実現するためには仕組みが必要です。「想像」を「創造」につなげるためのサポートがあるまちに、人は集まってきます。

未来に 残したい 場所を 想像・創造する

自分たちで創造し、皆で育てたマイプレイスには、たくさんの出来事と出会いが生まれます。そこで過ごした時間が愛着を深め、未来へつながるまちのかたちをつくり出します。

▶アクション

ビジョンの上にはアクション＝具体的な行動があります。

アクションを継続させることで、まちに持続性を生み出します。

つくる

マイプレイスを 想像・創造できるまち

- 自分だけのお気に入りの居場所がある
- 誰かに紹介したいお店がある
- 仲間と集まる空間がある
- 新しいことにチャレンジする仕組みがある
- 未来に残したい場所がある

暮らす人が大切にする場所は
訪れる人にとっても魅力的

マイプレイスが
まちを
豊かにする

あつまる

何度でも 通いたくなるまち

- 湯本の人が楽しく活用している「暮らしの場」は、訪れる人にとって魅力的な「観光の場」になる
- 暮らす人との小さな出会いの集積が、訪れたまちへの思いを強くする

未来の街へ投資することで
成長が持続する

人が集まる場所、人が過ごす時間
にお金が集まる

かせぐ

未来に向けて 成長を続けるまち

- たくさん人が訪れること、そこで長く過ごすことは、まちでお金を消費することにつながる
- 成長するまちは新しいビジネスが生まれる可能性にあふれている

**このサイクルが生まれると
まちがどんどん活性化して、
継続させていくことができる！**

▶コンテンツ／キャッチコピー

アクションの上にはコンテンツ＝伝えたい内容があります。

コンテンツは、すでに湯本にあるもの、新しく取り入れるもの、両方にまだ見ぬ可能性があります。

そこにどんなアイデアを掛け合わせて、新しく何を生み出すか？それをどう伝えていくか？

その発信が上手にできた時、湯本はもう一度、多くの人に選ばれる温泉地になります。

コンテンツ

温泉

開湯は奈良時代。1300年の歴史！
道後温泉・有馬温泉とともに
「日本三古泉」のひとつ



炭鉱

明治中頃から昭和40年代まで、
炭鉱のまちとして
大いに繁栄



フラ

日本のフラ文化発祥の地。
映画「フラガール」の舞台！



この他にも……コスプレ？

いわきFC？

音楽のまち？

クラフトビール？ などなど

×

新しい
アイデア

発信する時



キャッチコピー

フラのまち宣言

日本三古泉のひとつ

コスプレにやさしいまち

千年温泉

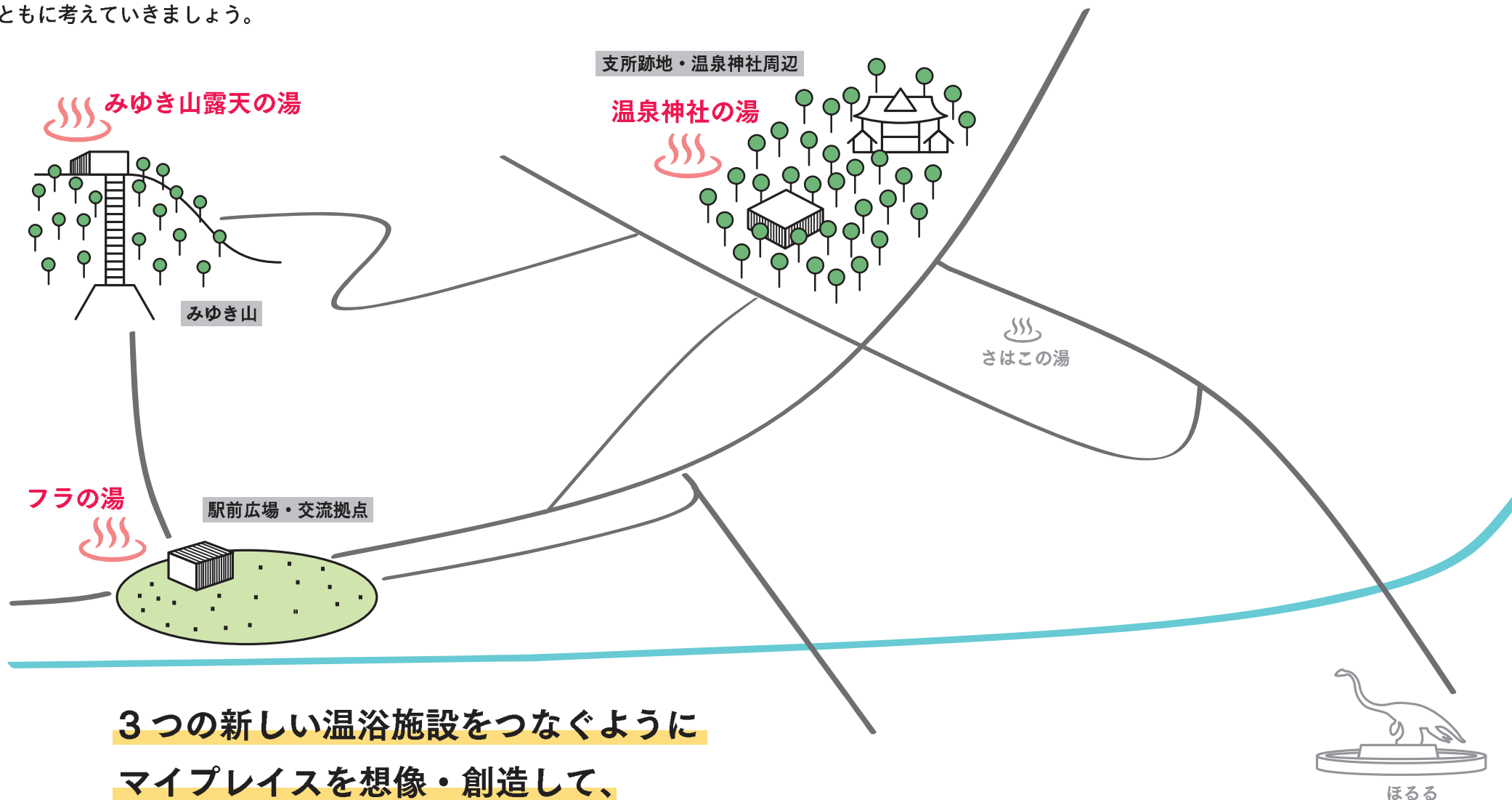
東北一の温泉地、
いわき湯本温泉

にしていこう！

▶新しいまちのつくり方

2030年に向けて、私たちは3つの日帰り温浴施設の開設を目指しています。

これらを新しいエンジンとして、どうやってまち全体を活性化させていったら良いか、
ともに考えていきましょう。



**3つの新しい温浴施設をつなぐように
マイプレイスを想像・創造して、
まちなかの魅力的な居場所を増やしていこう！**

2 新しいまちは どうなる？

湯本のまちの好きなところは？

このまちに足りないものは？

まちにあったらいいな、と思うものは？

地域に暮らす人として、

自分ならまちに対してどんなことができそう？

子どもたちに、どんなまちを残したい？

湯本のまちを見つめ直すワークショップでの
問いかけに、参加者からはさまざまな答えが。
この章では、そんな皆の声をイラストにして
紹介します。

新しい湯本のまちに、
どんな風景が広がるのか——
イラストを見ながら、あなた自身も、
ぜひ具体的なシーンを想像してみてください。

それがマイプレイスの創造、
まちづくりへの第一歩です。

▶マイプレイスのエリア分けとイメージ

p.12 からのイラストは、ワークショップで上がった意見をもとに描いています。

実際の計画がこの通りになるということではなく、

まちづくりの考え方を住民と行政が共有するために描きました。

しかしここでつくられた考え方の基本は、実際の計画にも反映されていきます。

エリア①

駅前広場・交流拠点

駅前が大きく再開発。支所や図書館などが
移転してきて温浴施設と合体、次世代モビリ
ティを取り入れた新しいロータリーも設置。

エリア②

駅前緑地周辺

駅前とみゆき山をつなぐエリア。みゆき山に
登る大階段と地上の緑地は、ハレの日（特別
な行事の日）もケの日（日常）にも、新・湯本
の顔として、あらゆる人を迎え入れる。

エリア③

みゆき山

現在は利用者の少ないみゆき山。高台に温浴
施設や芝生広場、公衆トイレを設置して、
皆が安心して使える憩いの場に。

エリア④

軌道みち

県道と温泉神社をつなぐ通りは、たくさんのお店が立ち並び、歩いて楽しい湯本の
目抜き通りのような存在に。

エリア⑤

支所跡地・温泉神社周辺

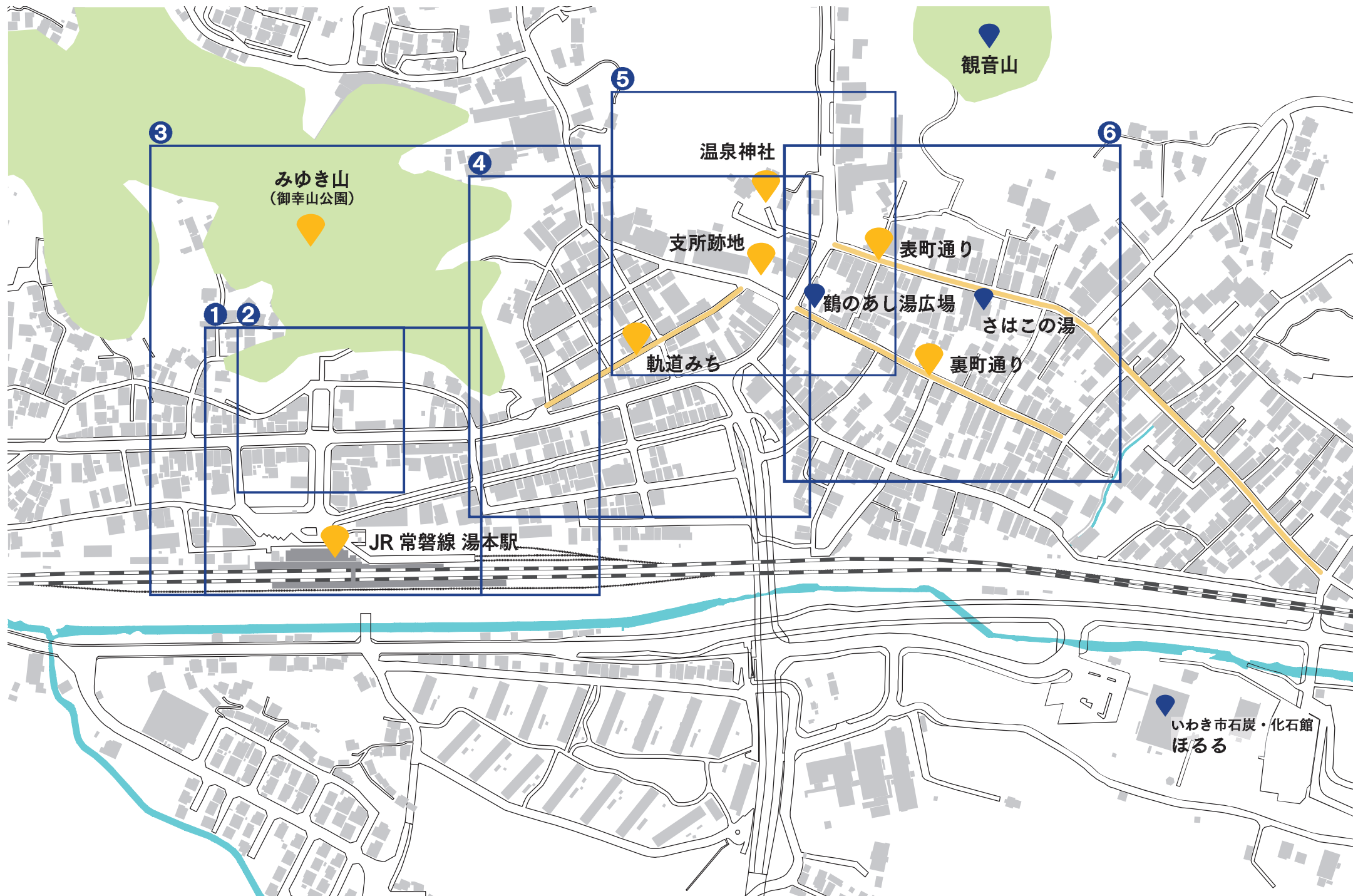
温泉神社と支所移転後のエリアは、温泉街の
新しい中心地として、誰もが訪れる湯本を
象徴する場所に。温浴施設も開設。

エリア⑥

表町通り・裏町通り

表町通りは温泉神社の表参道としてにぎわ
い、裏町通りは個性的かつ実験的なお店が
ひしめき合う、注目のホットスポットに。

*エリアはワークショップでの意見を集約した結果、この冊子で紹介しやすく
するために設定したもので、行政区域ではありません。



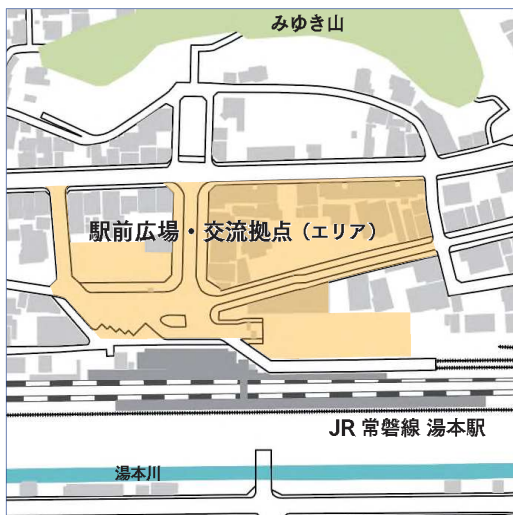
マイプレイスのイメージ

エリア① 駅前広場・交流拠点

湯本駅は、まちを南北に縦断する JR 常磐線の駅です。現在、駅の西側には路線バス・タクシー・乗用車のロータリーがあります。平日の朝は、電車通学の子どもたちを送って来る車などで混雑しますが、その他は閑散とする時間帯も多く発生しています。

湯本は温泉観光地ですが、駅の改札を出た時に「温泉地に来た！」と実感してもらえる雰囲気希薄だという声が住民の間からは聞こえてきます。また、駅では色々なお土産を買えない、という声も……。

そんな駅前をどう変えていったら、魅力あるまちの「玄関口」になれるのか、皆で考えを巡らせました。



温泉街・湯本、いわき観光の玄関口。 駅前広場は、みんなで共有するマイプレイスの集合体

このまちへ来たばかりの人には、**宿泊先へのチェックインと手荷物あずかり、観光案内**を。

帰りの電車を待つ観光客には、**湯本ならではのお土産**を。

よちよち歩きの子どもには、**転んでも痛くない人工芝**を。

放課後におしゃべりしたい高校生には、**テイクアウトドリンクとスイーツ**を。

浴衣やアロハシャツで歩くカップルには、**温泉地らしい雰囲気**を。

みんなが過ごしたいように過ごせる場所が、未来の湯本には必要です。

施設の
複合化・多機能化による
にぎわいの創出

支所なのに、マルシェもフラの練習も。 交流拠点は、みんなが集まってくるお気に入りの場所

駅前交流拠点には、まちの行政機関である常磐支所も移転。

でも1階の通りに面したスペースには、マルシェやカフェスペースがあって、
2階にはフラの練習にも使える多目的室が。

誰かの気配が、また別の誰かを呼ぶ。そんな自然と人が集まってくる場所があれば、
特に用事がなくなったら、ふらりと立ち寄ってみたいくなるかもしれません。



建物と建物のすき間に 入れ替わり立ち替わり現れる、非日常の小さなマイプレイス

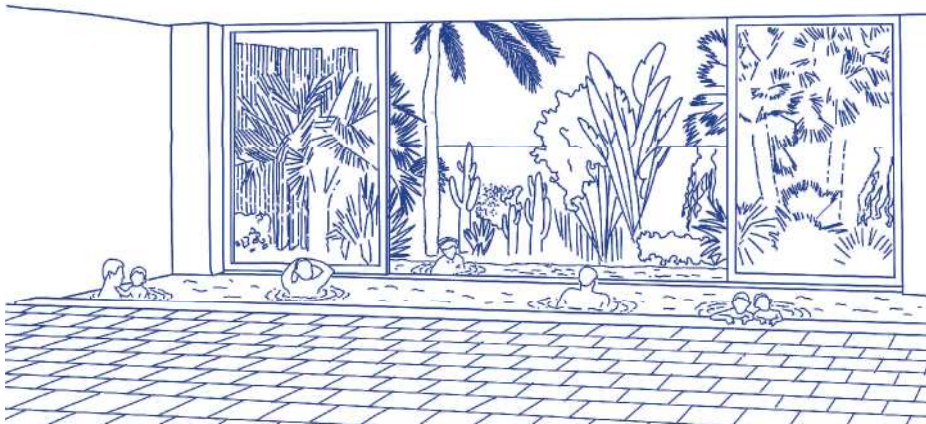
建物と建物の間のちょっとしたスペースも、マイプレイスになり得る可能性が。

週末にフリーマーケットを開くもよし、ストリートミュージシャンとして路上ライブを
演じるもよし。少し飾り付けをしてみれば、たちまちお祭りの雰囲気。

常設のプレイスばかりじゃなくてもいい、気軽に非日常の使い方を想像できる路地的広場は、
みんなの個性を大事にしたい、湯本らしい表現の場です。

マイプレイスのイメージ

エリア① 駅前広場・交流拠点



フラのまち・湯本だから「フラの湯」

駅前交流拠点には、3つの新しい温浴施設のうちのひとつを開設。

湯本を訪れる人が最初に出会う温泉だから、
湯本に来たことを実感して欲しい――。

そんな思いをストレートに表現するのが「フラの湯」です。

陽の光が差し込む明るい浴場に、（東北なのに）**南国の植物**たち。

ハワイアンミュージックも聴こえてくれば、

旅のはじまりからリラックスモードになれます。



湯と本の香りで癒される、温泉図書館。 それが「湯本」での新しい過ごし方

駅前交流拠点には、**常磐図書館も移転**。新しい湯本のまちにとって特別な場所に。

本を借りる親子、**湯本の歴史コーナー**に見入る出張中のビジネスマン、
勉強をする学生、湯上がりの休憩にきた**浴衣姿**の観光客。

温泉と図書館が同居する全国でも唯一無二の場所は、

ゆっくりとした時間を楽しむための「湯」「本」を象徴する空間になります。

コミュニケーションの数だけ
まちの魅力がえられる

温泉地の湯けむりを手軽に実感。 新しいワーク／勉強スタイルをつくる、足湯&デスク

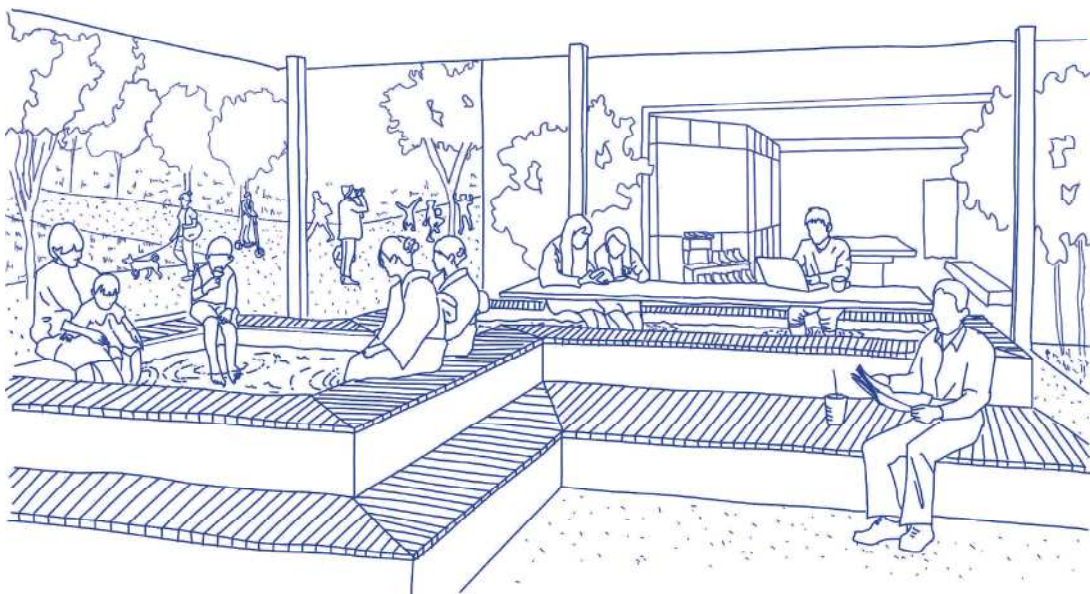
駅前広場の周辺の足湯は、温泉地ならではの過ごし方ができるスポットのひとつ。

カウンターデスクがあれば、**パソコン**を広げてひと仕事、

あるいは**試験勉強**をすることも。血行が良くなり、はかどること間違いなしです。

さらに**浴衣姿**でのんびり足湯を楽しむ人も加われば、

旅行と日常が入り混じる、不思議な時間が流れる場所になります。



わざわざこのまちに来てくれた人だから、 湯本のいいところを見つけて帰って欲しい

湯本の人はやさしい——外から訪れた人たちに、よく言われる言葉です。

それなら本当にそう感じてもらいたい。

たくさんのことはできないかもしれないけれど、

困っていたらちょっと助けてあげたいし、

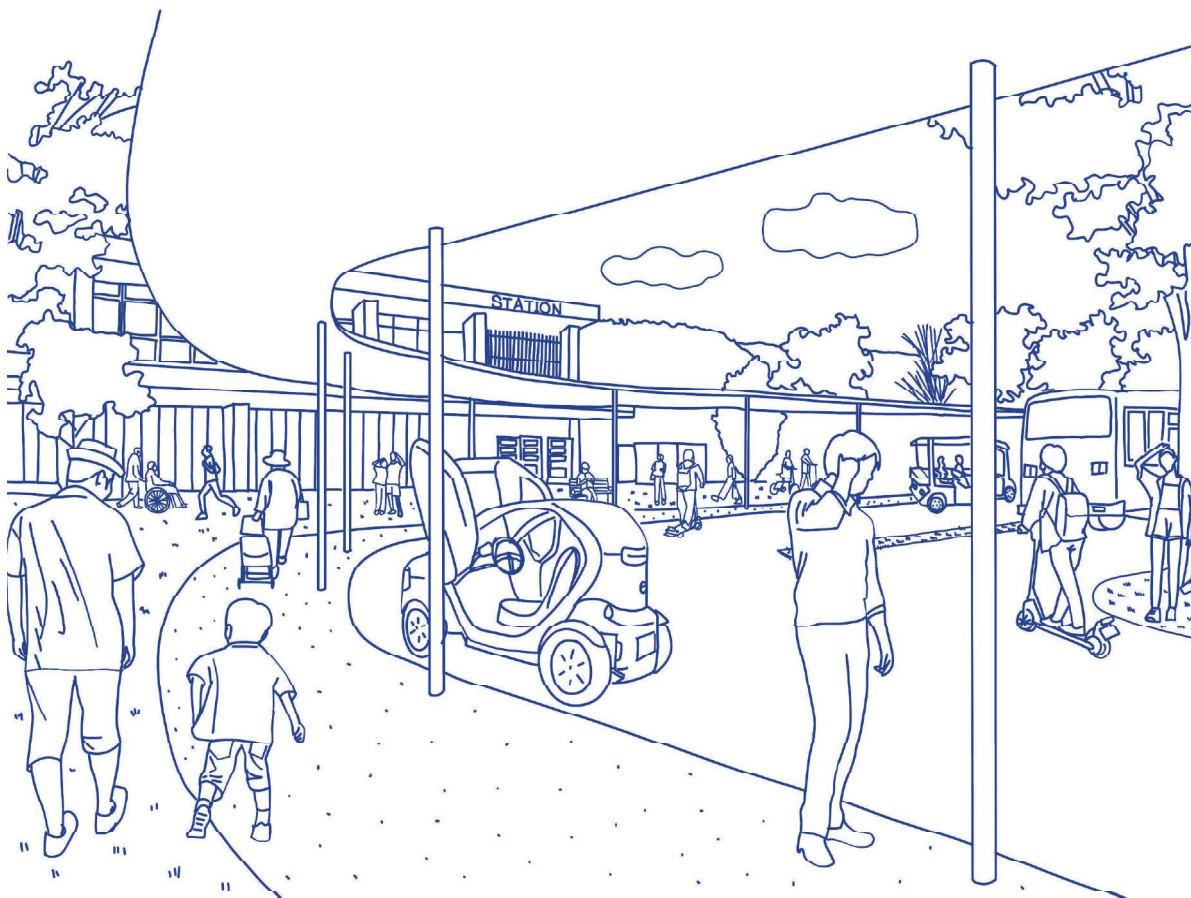
お気に入りのマイブレイスのひとつも教えてあげたい。

いい思い出ができれば、きっとまた来てくれると思うから。



マイプレイスのイメージ

エリア① 駅前広場・交流拠点

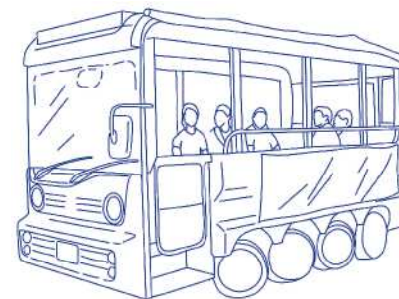


新しい時代のモビリティが 駅前をたくさんの人の交差点に変える

スマホで予約したタクシーを呼び出す人、レンタルした電動キックボードや超小型モビリティで移動する観光客、路線バスやデマンド交通に乗り合って目的地へ向かう、地域のお年寄りや親子連れ。新しい移動の仕組みの導入が、もっとまちに出て過ごしたい人たちに行動するきっかけを与え、駅前広場にたくさんの人たちが集まってくる可能性をつくり出します。

移動利便性の向上、
環境負荷の低減を実現する
新たな交通システムの可能性

湯本で導入の可能性がある次世代モビリティの例



グリーンスローモビリティ
時速 20km 程度で走行。
小型の電動車で、乗合いバスのようにして利用できます。
いわき駅前周辺では、2020 年から実証実験が始まっています。



超小型モビリティ
時速 60km 以下で走行。
自動車よりコンパクトで環境性能に優れた、1～2 人乗りの車両です。
高齢者や子どもと一緒にちょっと移動したい場合など、地域の手軽な足となります。



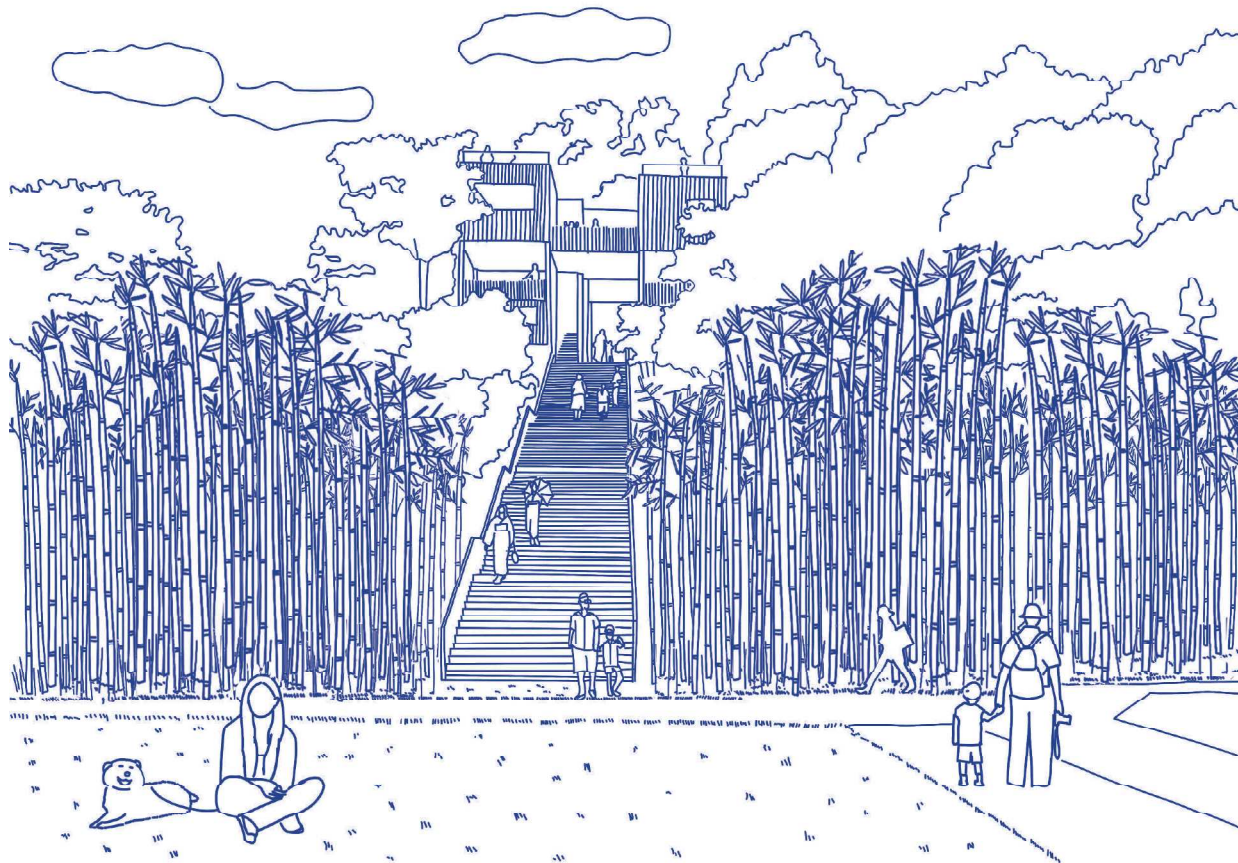
電動キックボード
時速 15km 程度で走行。
歩くには少し遠いな……という距離を移動するのに便利です。

マイプレイスのイメージ

エリア② 駅前緑地周辺

湯本駅前から県道を渡った先には、「^{あき}Aki ち」と名付けられた緑地帯と、みゆき山に登る階段があります。Aki ちではフラダンスショーなどが行われることもありますが、日常的には、それほど活発にアクティビティが繰り広げられているわけではありません。

駅前とみゆき山が盛り上がれば、ここも人の往来が増えるかも？「湯本といえば、この絵」と全国に知られるような象徴的なシーンがほしい！そんな期待を込めたイメージです。



駅正面、湯本新名所の「大階段」は まち一番の映えポイント！

湯本駅を出てすぐに目に飛び込んでくるのが、みゆき山の大階段。登るのを少しためらうような迫力があっても、高台に眺めの良い露天風呂と気持ちの良い芝生広場があると聞けば、行かずにはられません。

階段下のオープンスペースでのフラダンスショーは、この階段から見下ろすのが特等席になるかも。高低差のある湯本をシンボリックな階段がつなぎ、立体的に楽しめるまちへと変化させます。

人の移動のシンボル化

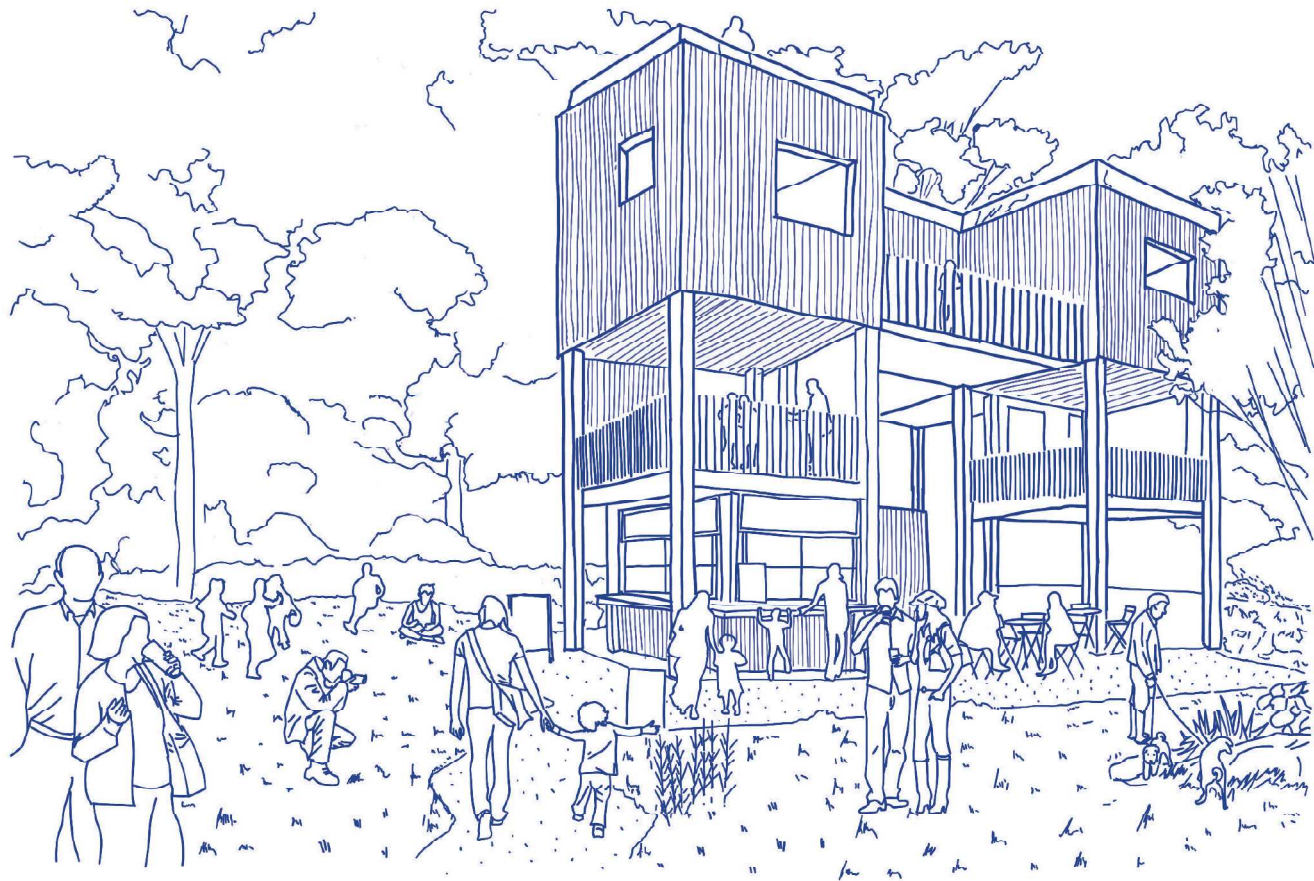


マイプレイスのイメージ

エリア③ みゆき山

みゆき山は、湯本駅を出て正面に見える小高い丘です。かつて「見沖山」とも呼ばれ、往時は山頂から小名浜の海も望めたとか。今でも湯本のまちが一望できるパノラマビュースポットです。しかしそんな絶好の立地にもかかわらず、現在、利用者は多くありません。1970年代に御幸山公園として整備されましたが、今では木々が生い茂り、公衆トイレも薄暗い……。芝生広場はあるけれど、ガランとしていて、さみしげです。子どもたちを遊ばせるのはちょっと心配、という声も聞こえてきます。

みゆき山を、再び皆から愛される、自然豊かな憩いの場にするにはどうすれば？ 将来のみゆき山で過ごしたい時間を想像してみました。



**湯本で一番、広い空を満喫できる。
生まれ変わったみゆき山は、
もうひとつの時間が流れる居場所**

新しい温浴施設の1階には、コーヒーや軽食をテイクアウトできる
屋根付きのカフェスペースを。

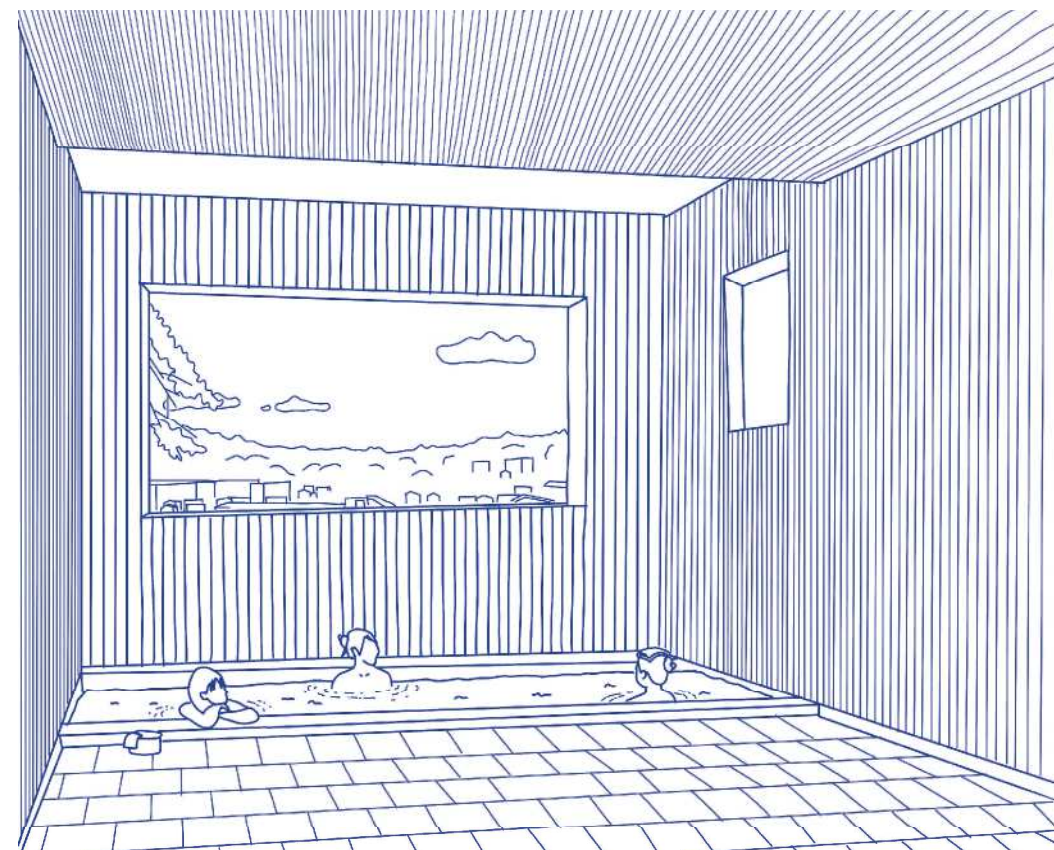
きれいな公衆トイレも設置し、みゆき山全体を明るくて安全な、
利用しやすい場所として再生させます。

地上から少しだけ切り離された自然豊かな場所だからこそ、
自分だけの時間の流れを感じることができるかもしれません。

施設と一体化することで
可能となる
広場の整備と管理

かけっこ、凧あげ、ピクニック ゲートボールに盆踊り…… なんでもどうぞ、開放的な芝生広場

新しい温浴施設の前には、空と緑に囲われた芝生広場が広がります。
元気に遊び回る子どもたち、温泉後にのんびりと夕涼みをする老夫婦、
放課後に立ち寄った高校生——アクティブにでも、静かにでも。
ぽっかりと空いた、何もない場所だからこそ、
みんなの時間をそのまま受け止めることができます。

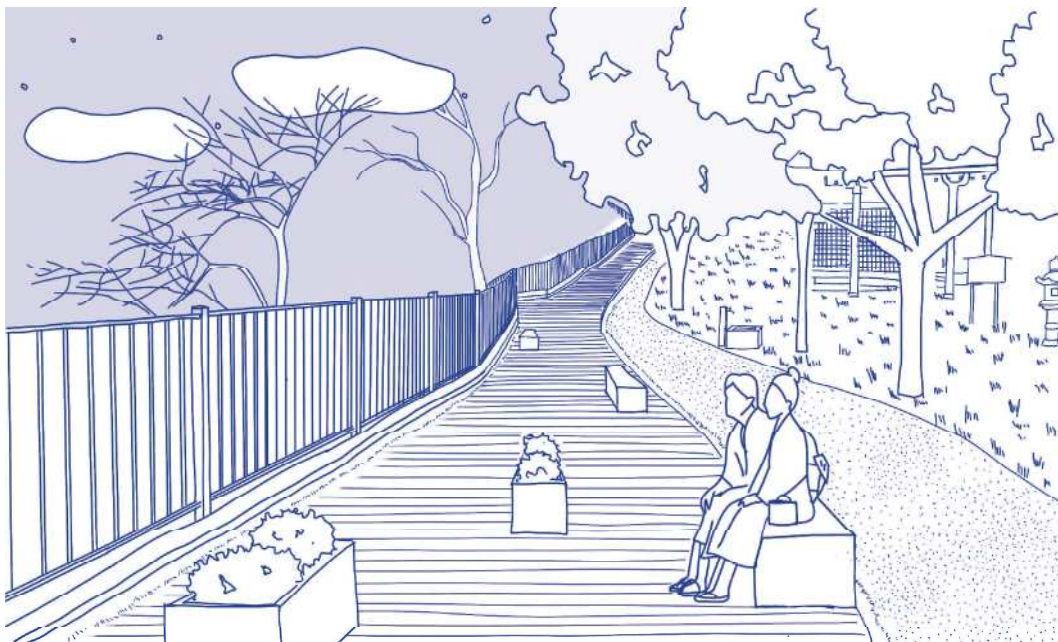


湯本の空を切り取る 「みゆき山露天の湯」

みゆき山の大階段を登った先には、新しい温浴施設のうちの2つ目を開設。
かつて「みおきやま見沖山」と呼ばれたロケーションにふさわしい眺望の湯です。
開放的な浴場には、高台に吹く気持ちの良い風が舞い込んできて、
爽快で元気な気分になります。

マイプレイスのイメージ

エリア③ みゆき山



まちを見下ろしながら、静かに過ごす。
ほんのりと灯りがともる夜の小径は、湯本の夜景スポット

シンプルなデザインのベンチと、控えめな明るさの街灯に照らされたみゆき山の小径には、
湯本の静かな夜の時間が流れて――。

ひとり静かに思索にふけるもよし、ふたりの距離をそっと近づけるもよし。

最小限のデザインでつくられた余白のある居場所は、使う人の想像力を豊かにします。

高さの操作で
新たな視点を風景に与える

季節の移り変わりを感じられる まちなかの自然散策路

山桜、^{あじさい}紫陽花、紅葉、雪柳――駅前に、こんなに豊かな自然があるなんて。

みゆき山の頂上から温泉神社の方へと抜ける小径は、

四季折々の植物が楽しめる、自然豊かな美しい散策路です。

足腰の、日々のトレーニング・トレイルにもなるかもしれません。



マイプレイスのイメージ

エリア④ 軌道みち

県道から一本脇に入った温泉神社へとつながる道は、歩いて通るにはちょうど良い道幅です。温泉旅館が立ち並ぶ旅館街にも隣接しています。しかし現在は人通りが少ないこともあって、車の抜け道として使われることも。

ここがもっとにぎやかになれば、駅前から神社方面へ移動する人々をたくさん呼び込めるかも？通りにどんな仕掛けがあれば、お客さんに喜んでもらえるだろう？そんな視点で考えました。



**浴衣でアロハで、そぞろ歩きたい！
歩いても休んでも楽しい、ふれあいの小路**

店先に出されたベンチは、お店からお客様への

「ひと休みしていきませんか？」というおもてなしの気持ちの表れ。

湯本駅から新しいまちの中心地（支所跡地）へ向かうメインストリートとなるであろう

この道には、観光客を引き付ける、たくさんのお店が軒を連ねることに。

沿道のにぎわいが観光客だけでなく、まちの人々にとっても楽しく過ごせるものになる
ことが大切です。

**グランドフロアの
開放による
滞在時間と消費の増加**

マイプレイスのイメージ

エリア⑤ 支所跡地・温泉神社周辺

現在の常磐支所は、駅前に機能を移転させる計画です。その跡地は温泉神社に隣接し、旅館街にも近いため、観光地である湯本のまちではとても良い場所にあるといえます。神社の鎮守の森から流れてくる清浄な空気にもっと触れていたい……と思う人は多そうですが、ここにはカフェのような一定の時間、留まって過ごせる場所がありません。

まちなかでゆっくりと時間を過ごすなら、どんな空間が良いか？想像をふくらませました。

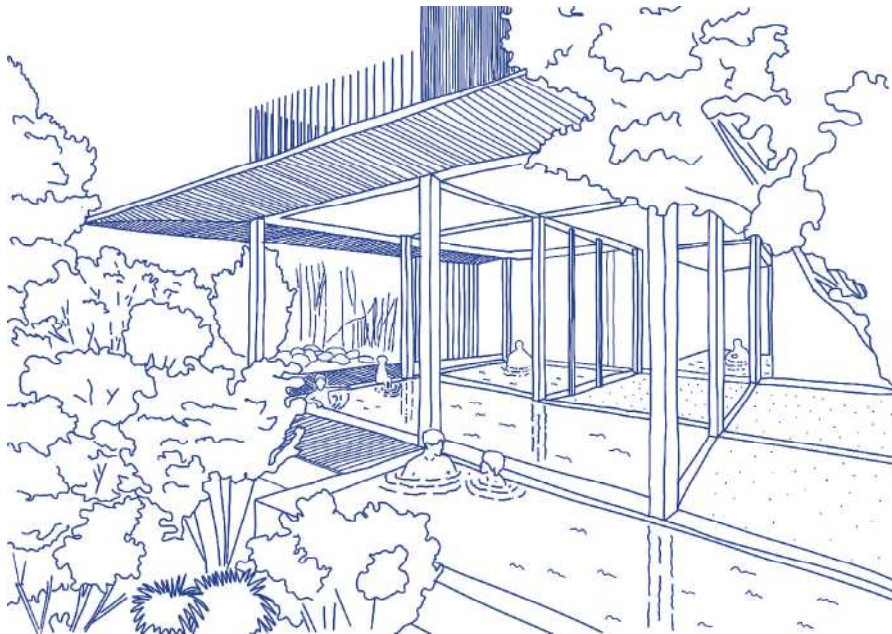


新旧リソースの掛け合わせで
生み出す、エリア価値の向上

温泉街の真ん中に生まれる、新しいまちの中心地

温泉神社の森を借景にした温浴施設は、宿から観光客が気軽に出かけられる温泉街の新しい中心地。

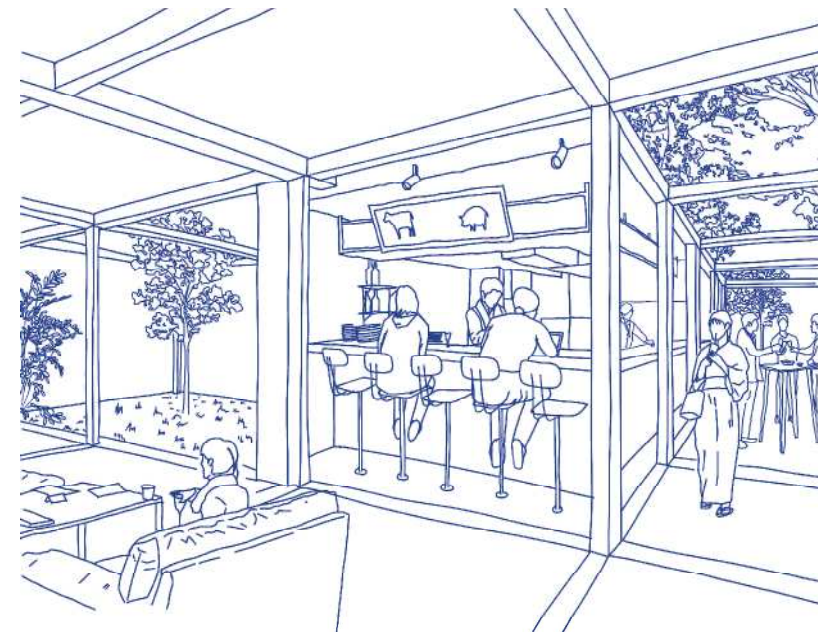
チェックインまでの時間や、就寝前にふらっと立ち寄れる立地にふさわしい雰囲気、温泉神社と連携した歴史を楽しむコンテンツなど、さまざまな可能性が期待できます。湯本には今までになかった新しい魅力あるプレイスです。



温泉神社の横にあるから 「温泉神社の湯」

温泉神社の隣、駅前に移転した
常磐支所の跡地には、
新しい温浴施設のうちの
3つ目を開設。

**1300年の歴史ある
霊験あらたかな森**に包まれて、
森林浴と入浴を同時に体験。
体のリラックスと
気持ちのリフレッシュが、
これ以上ないくらいに
促進されます。



静かな夜の時間を分け合う 大人たちのマイプレイス

繁華街では十分飲み、食べ、楽しんだ。宿に帰る前にもう1杯だけ——。
今夜は友人同士でじっくり語り合いたい——。
そんな時は、神様の近くの静かな森の中でグラスを傾けられれば。
温浴施設のカフェ&バーは、誰もが安心して夜の時間を過ごせる空間です。



例えば温泉神社ブックカフェ

温泉神社の参道脇に、誰もが気楽に過ごせるブックカフェがあったら？

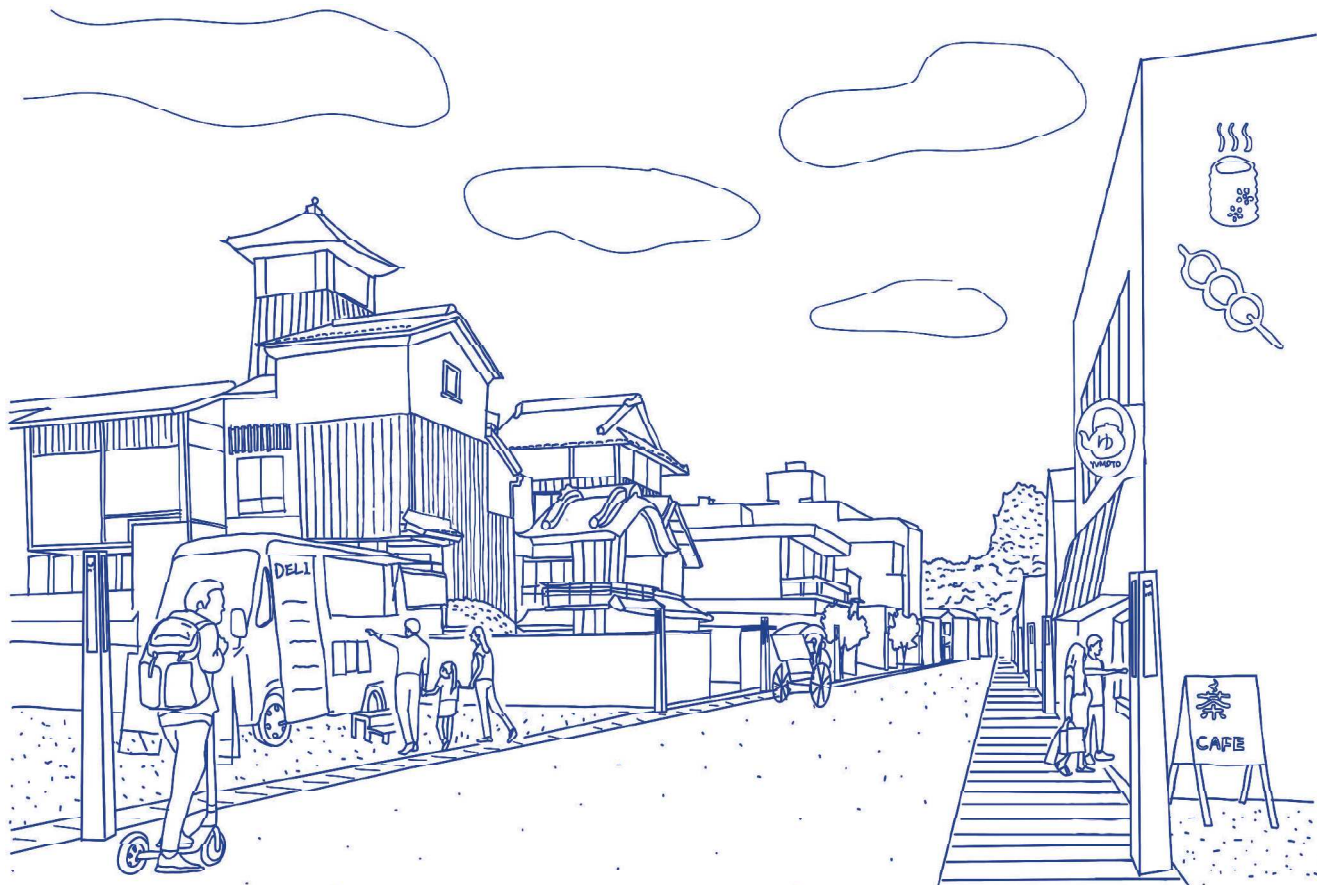
1階ではお茶を飲みながら、今月のおすすめ本をチェック。
2階のオープンスペースでは、展示会、朗読会、ワークショップ、ミニコンサート、
ちょっとしたお祝いの席など——色々な使われ方が考えられます。
湯本のシンボルのすぐ横の、**地域から愛されるみんなの居場所**は、
湯本を訪れる人たちにとっても大切な目的地になります。

マイプレイスのイメージ

エリア⑥ 表町通り・裏町通り

表町通りはかつて商店街・寺町としてにぎわった通り。裏町通りは表町と路地でつながり、夜の街としても活気があった時代がありました。いまはエリア全体で空き地や空き家が目立つようになり、かつてのにぎわいの面影は薄れつつあります。また、表町通りは車の交通量が多くて、少し歩きづらいところも。

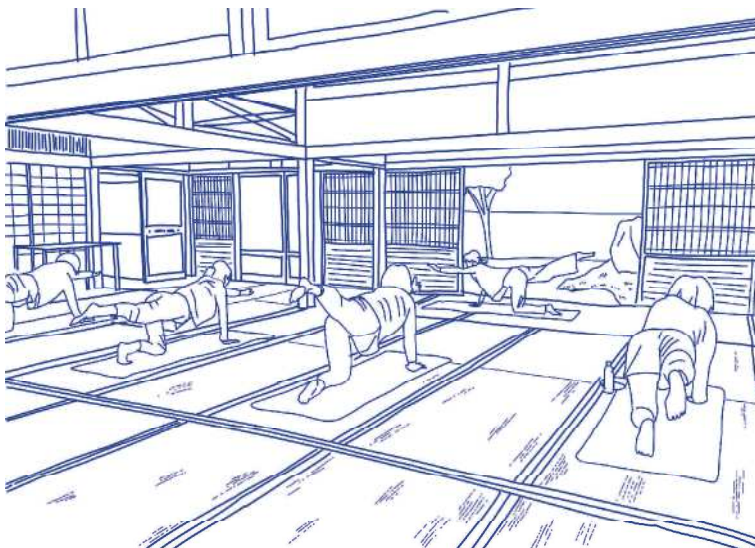
しかし、まちにこれまでなかった新しい商売やアクティビティの実験的な試みは、既に始まっています。このエリアをさらに活性化するためには、どんなチャレンジの可能性があるか、思い描いてみました。



小さなアクションの連続でつくられる 温泉神社の表参道

温泉神社から続くこの通りは、
まちの歴史を感じられる表参道のような存在に。
空き家や空き地を活用すれば、通りの雰囲気は大きく変わります。
いい雰囲気の古い建物をリノベーションしてお店にしたり、
まちのすき間を見つけて、キッチンカーで実験的な商売を始めたり。
ひとり一人の小さなアクションがたくさんのプレイスを生み、
その連続が新しいまちの風景を生み出します。

実験的な企画でつくられる
まちの風景



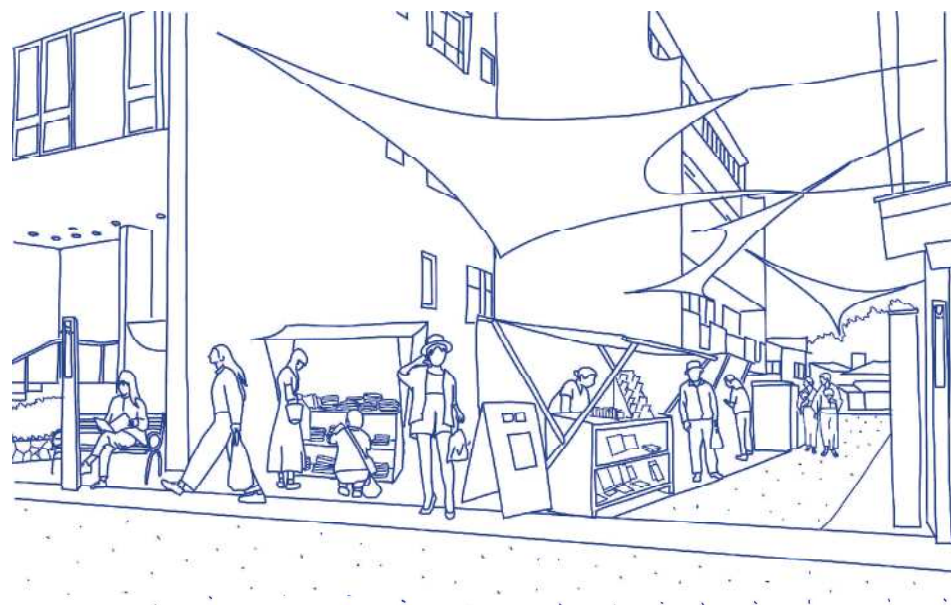
自分らしい、
個性的なマイプレイスを。
チャレンジする人を
応援するまち

自分が興味のあることや、
誰かに紹介したいことから
小さなお店をスタートしてみる。
簡単なことではないけれど、湯本には、
それを実現できる魅力的な場所と、
それぞれの想いをサポートする仕組み
があります〔裏表紙参照〕。



温故知新 歴史と現代が交差する、 地域の新しい交流の場

お寺でヨガ？アートイベント？精進料理？
歴史ある湯本の魅力を楽しむための仕掛けは、
たくさんの人を引き付けるコンテンツとなり、
他の場所では経験することのできない
時間を提供することになります。
まちのすぐそばにある神社やお寺で
催されるイベントが、
湯本ならではの新しいプレイスとなる
可能性を秘めています。



昔のにぎわいを取り戻す。 路地はアクティビティの実験場

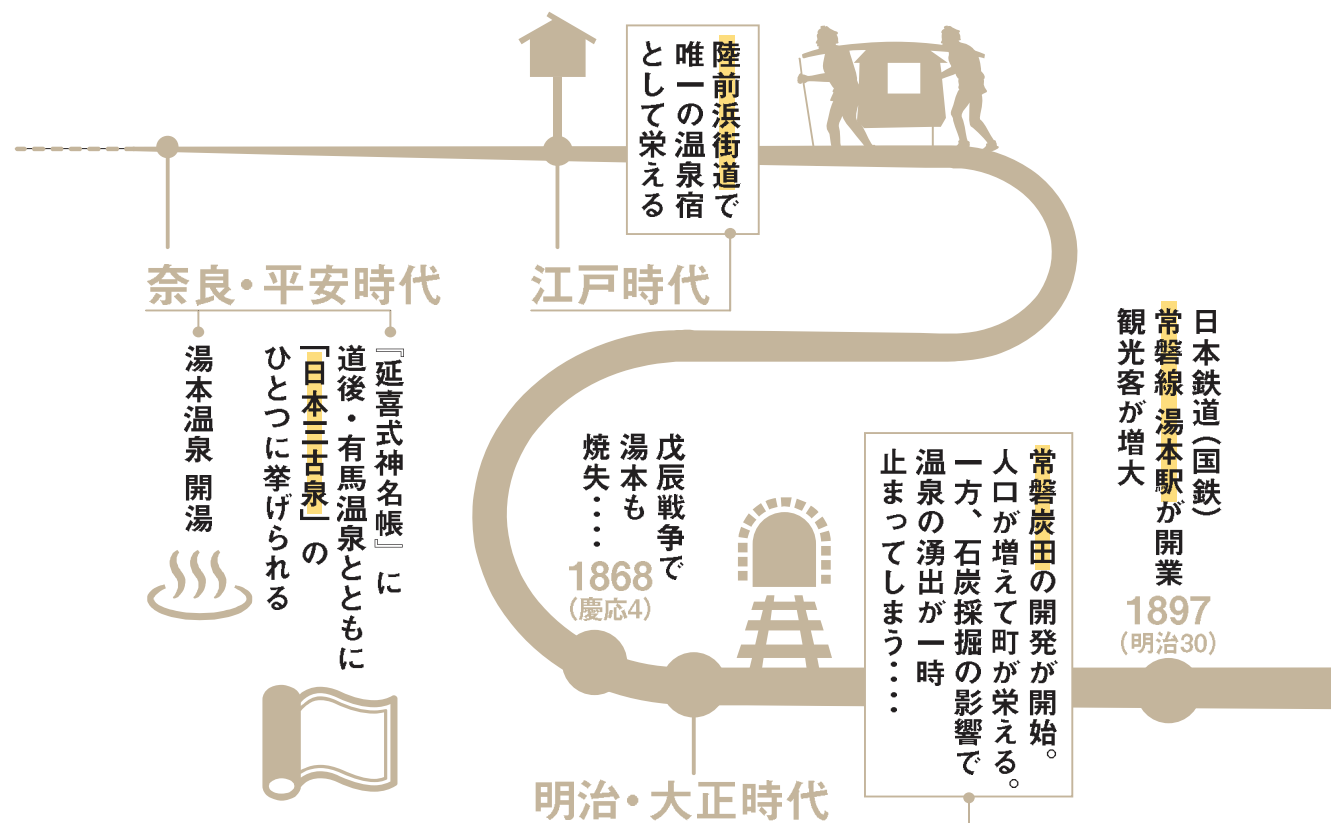
表町通りと裏町通りをつなぐ小路で、
屋台を集めてイベントを開催。
くり返し行うことで、まちでのエリアの存在感を
高め、将来、具体的な事業へ発展させるための
きっかけづくりとします。
昔とは違う風景かもしれないけれど、
変化し続けるまちにこそ、
新たな可能性は芽を出します。

3 新しいまちづくりの これまでとこれから

湯本のまちづくりは、最近始まったものではありません。この温泉は、奈良時代に開湯したといわれています。以来1300年の間に、まちには大きな繁栄と衰退がありました。それらを乗り越え、たくさんの人が暮らす場所として続いてきた歴史があります。今回の新しいまちづくりにつながる活動も、20年ほど前にスタートしました。

ここでは、湯本のまちの施設の開業や、まちづくりに関わる出来事のごく一部をご紹介します。

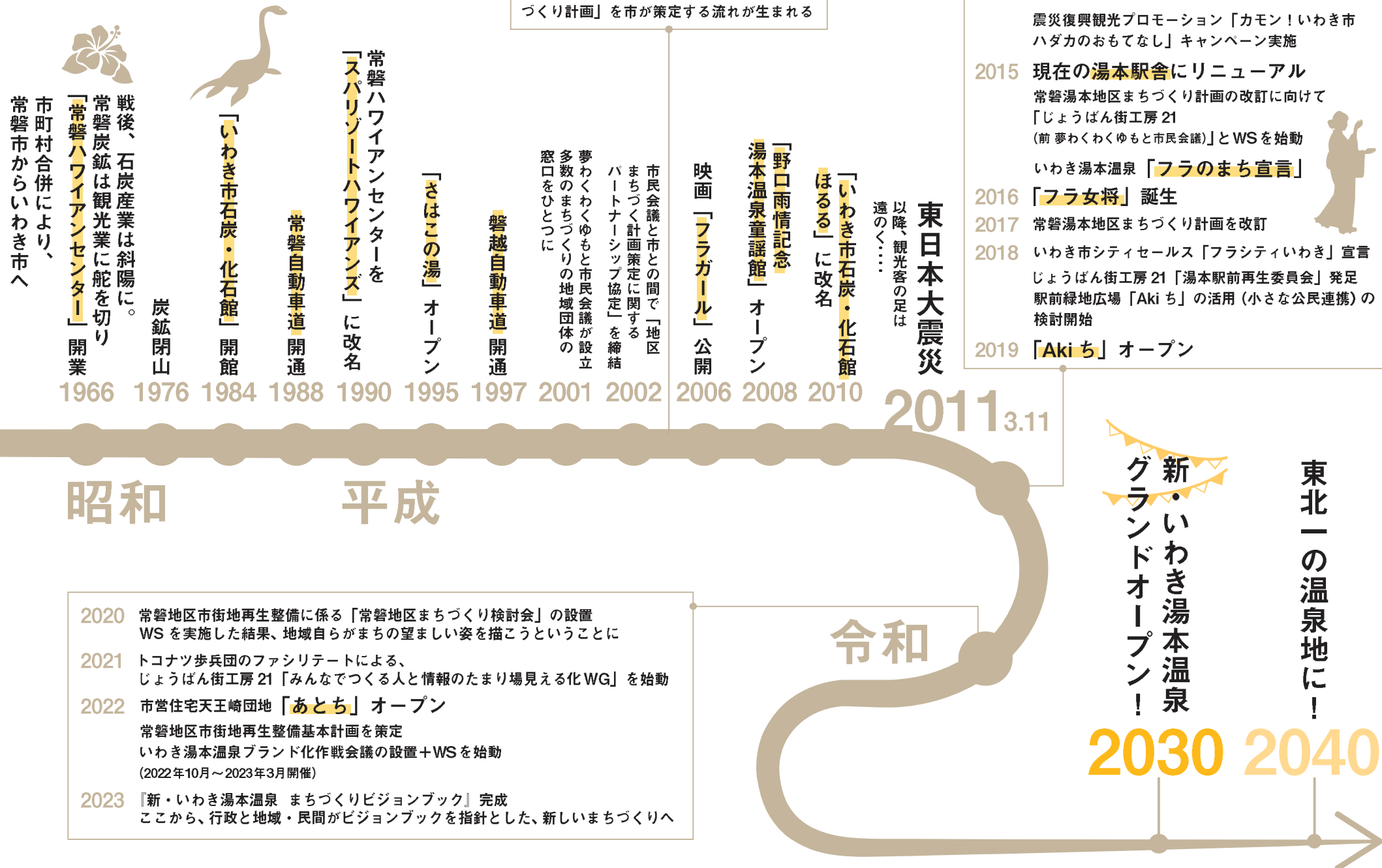
3つの温浴施設のオープンを目指す2030年に、まちが完成するものではありません。その前も、その先も、人が住んでいる限り、まちづくりはずっと続いていくのです。



湯本には、温泉のはじまりにまつわる昔話があります。佐波古は、三箱／三函／三函とも書かれ、現在でも「湯本町三函」という地名が残っています。温泉神社の近くにある「鶴のあし湯」は、この伝説に由来しています。

二人の旅人が、ここ佐波古の里を訪れると、傷ついた丹頂鶴が降りてきて、湯気が立ちのぼる泉に浸かっていました。かわいそうに思った二人が傷口を洗ってあげると、鶴は元気に飛び立っていきました。

数日後、巻き物を持った高貴な女人が訪ねて来ました。巻き物には「この佐波古の御湯を二人で開いて天寿を全うし、子孫の繁栄をはかるべし」と記してありました。二人はさっそく、湯本温泉を開きました。



「番外」 いわき湯本温泉って どんなところ？

湯本に来たことがない人にとっては、
「いわき湯本温泉」といっても、いまひとつ
ピンとこないかもしれません。

でも、ぜひこれから湯本にたくさん親しんで
ください。

このページで紹介する事項は、いわき湯本温泉・
いわき市を形づくるごく一部の要素ですが、
この中にもし、何かあなたの興味を引くことや、
あなたとの共通点が見つかれば幸いです。

位置



▶鉄道

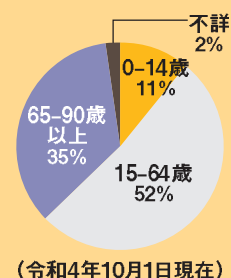
- 東京駅—湯本駅
JR 常磐線 特急ひたち／約2.5時間
- 郡山駅—湯本駅
JR 磐越東線／約1.5時間
- 仙台駅—湯本駅
JR 常磐線 特急ひたち／約2.5時間

▶車

- 東京（三郷 JCT）—いわき湯本 IC
常磐自動車道／約2時間
- 郡山 IC—いわき湯本 IC
東北自動車道、磐越自動車道／約1時間
- 仙台宮城 IC—いわき湯本 IC
東北自動車道、磐越自動車道／約2時間
- 仙台東 IC—いわき湯本 IC
仙台東部道路、常磐自動車道／約2時間

人口

いわき市全体 322,509人
湯本(常磐地区) 32,173人
湯本 世帯数 13,900世帯
(令和5年4月1日現在)



気候

いわき市は太平洋に面しており、東北地方のなかでは夏冬の寒暖差が少ない温暖な気候です。年間の平均気温は11～15℃で、例えば東京とはそれほど気温が変わりません。積雪も少なく、過ごしやすい地域です。

温泉

開湯は奈良時代といわれ、有馬・道後温泉と並ぶ「日本三古泉」のひとつとされています。

源泉は、地下約 50m から汲み上げた毎分 5t の湧出量を誇る 59℃ の天然硫黄泉です。泉質は全国的に珍しい【含硫黄-ナトリウム-塩化物・硫酸塩温泉】で、「美人の湯」(美肌作用・解毒作用・末梢血管拡張作用)、「心臓の湯」(血圧を低下させる～動脈硬化、高血圧に効く)、「熱の湯」(高齢者向き～保温効果が高い)等の数々の効能があります。

湯本の SOUL お祭り

湯本には、たくさんの「お祭り」があります。お神輿の出る神社のお祭りから、ひたすら肉を焼いて食べる奇祭まで……大人にも子どもにも、とにかくお祭りが大人気です。

- 1 月 金比羅神社例大祭 @金比羅神社周辺
- 5 月 さつきまつり @温泉神社周辺
- 8 月 金魚つかみ大会 @ブロンズ通り
やっぺおどり大会 @湯本町一円
縁日広場 @ 宮本米店前
子種神社祭典 @鶴のあし湯広場
ゆながや夏まつり @上湯長谷公園
仮装盆踊り&花火大会 @表町通り
縁日広場 @鶴のあし湯広場
ミュージアムナイト @ほるる
納涼ビアガーデン @ほるる
成田山盆踊り大会 @成田山境内
- 9 月 浅見水神宮祭典盆踊り
@いわきサン・アビリティーズ 
- 10 月 月まつり @湯本駅周辺

炭鉱とフラ

湯本の代名詞といえば、炭鉱、そしてフラ——もし、映画「フラガール」をまだ見てなければ、おすすめです。旅館の女将さんたちが着物でフラを踊る「フラ女将」は、全国でも有名になりました。そして2018年には、いわき市全体のシティセールスとして、なんと「フラシティいわき」宣言を行いました。



サッカー

「いわき FC」はいわき市と周辺の町をホームタウンとするプロサッカークラブです。2012年に創設、2022年にJ3 参戦1年目で優勝を果たし、見事J2に昇格しました。ホームスタジアムである「いわきグリーンフィールド」は、ここ、湯本にあります！

特産物

いわき市では温暖な気候を活かして、多くの農産物が生産されています。ブランド品種としては、いわき苺・いわき梨・サンシャイントマトなどがあります。

また、小名浜などの市内の漁港で水揚げされたメヒカリ・アンコウ・サンマ・ウニ等さまざまな海産物が季節によって楽しめます。

観光

湯本周辺には、いろいろな観光スポットがあります。

- いわき湯本といえば「スパリゾートハワイアンズ」
- 東北最大級の水族館「アクアマリンふくしま」
- 平安時代の浄土式庭園を備えた「願成寺 国宝 白水阿弥陀堂」
- 上から太平洋の大海原を見下ろせる「塩屋埼灯台」
- 白砂の美しい海水浴場「勿来、薄磯、四倉、久之浜・波立」
- 炭鉱&恐竜の化石という珍しい組み合わせ「いわき市石炭・化石館 ほるる」

など……

おわりに

未来のいわき湯本温泉にいる人たちへ

「楽しむ」こと、「稼ぐ」こと、そして「笑顔になる」こと。
エンターテインメントを創造するプロフェッショナル集団である
トコナツ歩兵団が、湯本の皆さんと一緒に出来ることです。
僕らは縁あって 2013 年から湯本やいわき市と関わってきました。
そのいくつかは「フラ女将」や「フラシティいわき」という活動となり、
東日本大震災の風評被害に苦しんできた皆さんに、多少なりとも笑顔を
届けられたかなと思っています。

今回は皆さんに湯本の過去と現在を教えてもらいながら、
一緒に未来を語ってきました。
そしてここに湯本のまちづくりの目標「ビジョンブック」が（一旦）
完成しました！

湯本には 1300 年の歴史を持つ〈温泉〉、そして〈炭坑〉という
素材があります。
さらに〈フラの文化〉という「他と違う」素材があります。
それらをコンテンツに変換することで「楽しむ」「稼ぐ」「笑顔になる」
まちにする。

当たり前のことだけれど、主役は湯本に住む皆さん。
一緒に描いたちょっと先の未来は夢物語ではなく、明確な目標です。
行動すれば手に入るかもしれないし、行動しなければ手に入らない。
この「ビジョンブック」を書き換えながら 2030 年のスタートラインを
目指しましょう。

同時にこれを湯本以外に住む人たちにも届けたい。
新しい湯本の動きに参加したいと思う仲間が 1 人でも増えてくれる
ように。
そこからまた新しい湯本が動き出します。

皆で一緒に次の世代に誇れるいわき湯本温泉を創っていきましょう！
そして、いわき湯本温泉を東北一の温泉地へ！

いわき湯本温泉ブランド化作戦会議・司令塔
面白企画創造集団トコナツ歩兵団・団長
渡部祐介

いわき湯本温泉ブランド化作戦会議 メンバー

【委員】

●まちづくり専門家

司令塔／プロデューサー／ ブランディング	渡部祐介（面白企画創造集団トコナツ歩兵团 団長／ 株式会社マイロックチョコレーツ 代表取締役）
まちづくり／デザイン／建築	滝口聡司（株式会社 aptp・有限会社アパートメント 代表取締役）
ランドスケープ／景観／まちづくり	奥川良介（日本工営都市空間株式会社 東京支店 空間デザイン部 部長代理／ 大阪芸術大学非常勤講師）

●まちづくり組織

薄羽裕一（いわき湯本温泉旅館協同組合理事長 ホテルいづみや 代表取締役）
小泉智勇（じょうばん街工房 21 会長／有限会社マルテツ 代表取締役）

【アドバイザー】

井上直美（一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 会長）
松原兼一（いわき商工会議所常磐地区委員会 副委員長）
渡辺弘（いわき商工会議所公共交通研究会 会長）
その他 必要となる分野のアドバイザー

【サポートメンバー】

地域への溢れる想いがある者
基本計画関連施策等の行政担当部署の担当職員
いわき市（創生推進課、スマート社会推進課、地域振興課、産業チャレンジ課、
観光振興課、土木課、都市計画課、都市整備課、公園緑地課、常磐支所市民課、
常磐支所経済土木課）、福島県いわき建設事務所（企画調査課、道路課）

「いわき湯本温泉ブランド戦略 地域ワークショップ」とは

本ワークショップは、いわき湯本温泉ブランド化作戦会議の主催により、
2022 年10月～2023 年3月まで、毎月1回、地域住民にも参加を呼びかけて実施しました。

新・いわき湯本温泉 まちづくりビジョンブック 2023年4月

2023 年4月27日 発行

制作

いわき湯本温泉ブランド化作戦会議

制作協力

いわき市

編集

渡部祐介（面白企画トコナツ歩兵团 団長）
滝口聡司、田畑実希子（株式会社 aptp）

この冊子についてのお問い合わせ

【行政の窓口】

いわき市都市建設部都市計画課
住所 | いわき市平字梅本 21
電話 | 0246-22-7513
メールアドレス | toshikeikaku@city.iwaki.lg.jp

【地域の窓口】

じょうばん街工房 21
住所 | いわき市常磐湯本町天王崎 33-1
電話 | 0246-43-2757

支援プログラム

いわき湯本温泉には「マイプレイスの想像・創造」に向けた活動をサポートする、さまざまな仕組みがあります。ぜひご活用ください。

詳しくはコチラ▼



ビジョンブックについて

本冊子は、地域と行政がまちづくりの考え方を共有することを目的に作成しました。「ビジョンブック」は、今後もまちづくりの進展に合わせて発行を重ねていきます。まちづくりの土台である「ビジョンブック」に立ち返りながら、地域・行政が力を合わせて計画を推進していきます。